サポート通信

平成２９年２月２７日　発行
広島市立広島特別支援学校
No. １５

特別支援教育センター校からの情報発信・ネットワーク

■　サポートセンターだより

◆「読み」をサポートする『音声教科書』

たどたどしい読み方　行を飛ばす　漢字の読みで詰まる　自分流に読んでしまう　すらすら読むが内容を捉えられていない

音読を聞くと、こんな子いませんか？　文字を音に変えることに時間とエネルギーを使い果たしてしまい、内容理解までたどり着かない子どもたちがいます。今回は、文字を音に変換する「読み」の部分をサポートし、文章の内容理解に特化しやすい「音声教科書」を紹介します。読むことに支援を必要とする児童生徒は誰でも無償で利用申請できます。

① マルチメディアデイジー教科書

通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、テキストに音声をシンクロ（同期）させて読むことができるものです。ユーザーは音声を聞きながらハイライトされたテキストを読み、同じ画面上で絵を見ることもできます。

○　文字を音声で読み上げる　○　読んでいるところがハイライトされる
○　読みの速度を変更できる　○　行間、文字間隔を変更できる
○　文字サイズ、書体を変更できる　○　縦書き、横書きを変更できる
○　繰り返し学習できる

対　象：小学生、中学生
提供元：（公財）日本障害者リハビリテーション協会
http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html

小６国語「海のいのち」Ｐ１０６より

② Ａｃｃｅｓｓ　Ｒｅａｄｉｎｇ（小・中・高等学校の教科書）

印刷物を読むことに障害のある人々のためのオンライン図書館
対　象：小学生、中学生、高校生、特別支援学校の児童生徒
提供元：東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野
https://accessreading.org

東京大学先端研の近藤武夫先生が「合理的配慮」について次のようにおっしゃっています。

同じ土俵に乗るための便宜　同じ土俵にのってフェアな勝負をするためにテクノロジーを活用する

これまで一切音読に取り組もうとしなかったけれど、「ぼくはこれ（音声教科書）で音読する。」と自分から読もうとするようになった子もいます。読みに困難を示す子が自分に合った学び方を選択でき、自分らしく学んでいけるようにサポートしていきたいものです。

生徒の自主的な活動と活動時間の確保を　～タブレット端末を利用して

本校中学部作業学習の陶芸グループでは、「活動が分かって」「自分から動くことができる」ことを全体の目標の一つとし、生徒の障害特性に応じた様々な支援を受けながら、学習に取り組んでいます。今回は、「コップ」と「蚊取線香カバー」作りに初挑戦！コップグループ、蚊取線香カバーグループに分かれ、それぞれのグループで、三つ四つの班を作って学習しました。

その際、コップも蚊取線香カバーも初めて作る物であるため、これまでの学習で使用してきた手順表（図１、２）や完成物だけでは、どのように作るのかがイメージしにくく、作業の際、教師の直接的な支援が増えてしまうことが予想されました。それを解消する手立てとして、実際に作るところを見せることも考えましたが、一度の手本で全員の生徒が十分に見通しをもつことは難しく、工程ごとに手本を見せるために作業工程をそろえると時間が掛かり、作業量の減少につながってしまいます。やはり「初めて作る物である」ということが大きな課題であり、これまでの支援具だけでは、作るイメージをもちにくいと考えました。そこで、タブレット端末を各テーブルに一つずつ用意し、動画を見られるようにしました。（図３）動画であれば写真や文字だけでなく、音声や動きを実際に見ることができるので、ポイントや手の動かし方等が分かりやすく、作業のイメージをもつことができます。また、扱いも簡単なので、作業中でも生徒が自分で再生できるという利点もあります。実際に、紙の手順表だけで作業しているときは、写真や文字だけではどのように作っていくのかが分かりにくく、教師に一つずつやり方を確認していた生徒が、タブレット端末を用いたことで、自分で動画を繰り返し見ながら、一人で最後までやり切れるようになった姿も見られました。

また、各テーブルにタブレット端末を用意したことで、テーブルごとに違う物の作り方の動画を同時に見ることができました。そのため、説明時間の短縮につながり、作業時間を多く確保することができました。さらに、一つのテーブルに一つのタブレットを用い、動画を見たことで、「同じテーブルのメンバーで同じ物を作る」という仲間意識をもつことができ、作業中助け合いをする様子が見られることもありました。

図１　１枚ものの手順表
（全部の工程が見えるため、作業全体の見通しをもちやすい。）

図２　めくり式の手順表
（一つの作業工程ごとになっているため、今取り組んでいる作業に集中しやすい。）

図３　各班に用意したタブレット端末で再生できる動画

■ 訪問学級の現場から

本校訪問学級には、小学部、中学部、高等部の児童生徒が５名在籍しています。全員が知的障害や肢体不自由、病弱などの重度重複障害で、医療的ケアが必要な児童生徒がいたり、歩行器を用いることで体を自分で動かせる児童生徒がいたりと、多様な実態となっています。授業は、教員が児童生徒宅を訪問して行う訪問授業を週３回（１回につき２時間）設定しており、行事等に合わせて登校し同学年の通学籍の児童生徒と交流するスクーリング授業を適宜行う形となっています。

授業を行うに当たっては、様々な配慮が必要です。授業を行う前のうがい、手洗いはもちろんのこと、保護者に健康状態を確認するなど、健康面の配慮や安全の確保は絶対です。体調に応じ、時間や課題量を調整したり、児童生徒の細かな変化に気付き臨機応変に対応したりする必要もあります。また授業は、一つ一つの流れを丁寧に行うようにし、児童生徒の反応や様子をしっかり見届けて進めるようにしています。

それでは、授業の様子を紹介したいと思います。筋肉の緊張が激しく、身体が変形も見られ、人工呼吸器による呼吸の補助や経管栄養による栄養面の補助などの医療的なサポートが必要な生徒の訪問授業です。授業前半には、筋緊張の緩和をねらいにストレッチを行います。筋肉をほぐしたり、関節を動かしたりすることで身体全体をしっかり動かし、変形が進まないようにしています。最近では、ストレッチを行う中で、筋緊張がほぐれて呼吸も安定するためか、目をパッチリ開けることが増えてきました。授業の後半では、いろいろな体験を行うことをねらいに、物作りなどの活動に取り組んでいます。手が硬くなっていることもあるため、手の形に合うような自助具を用意し、ペンでの色塗りや筆での書き初めなどを行いました。手からの感触に視線を向けようとしたり、手を引いて自分で動かそうとしたりする姿が見られました。スイッチ教材を活用することで、楽器の演奏を行うこともできました。普段と異なる音や雰囲気を身体全体で感じ、目を大きく開け手を動かしていました。

訪問学級の学級目標は、「生きる力を育てる」ことです。常に健康面への配慮が欠かせない児童生徒ですが、無限の可能性を基に、それぞれのペースで活動や経験を広げていっています。その姿から担任も大きな喜びや励ましを得ています。訪問学級の児童生徒の「生きる力」を育んでいくことができるよう、また児童生徒が本校の目指す子ども像である「明るく元気にたくましい子ども」に成長していくことができるよう授業研究に励んでいます。

写真１　自助具
（手の硬さや変形のため、ペンや筆などが持ちにくくなっている児童生徒に使用する。握り手の部分が手の形に合うようになっている）

写真２　棒・ひもスイッチ
（ひもの部分を児童生徒の手に掛け、端子を加工した電気製品と接続して使用する。児童生徒の手などの動きを引き出すのに有効な教材の一つ）

おすすめ書籍

「学校では教えてくれない大切なこと　２
友だち関係　～自分と仲良く～」
旺文社編　旺文社
定価本体 ８５０円

本書は小学生を対象にしており、将来必要な力や身に付けてほしい様々なことを楽しい漫画で教えるといったシリーズ本です。自分や相手を知ることの重要性や、知っておいた方が良い世の中の仕組みなども軽いタッチで描かれているので、言葉で説明するのが難しいときに役立ちます。シリーズは１巻から１５巻まであり、１巻完結で巻ごとにテーマが決まっています。整理整頓、お金、インターネットのルールなどジャンルも多岐に渡り、子どもに伝えたいことや教えたいことを必要に応じてピックアップして読ませることができます。ここに取り上げた第２巻は、「友だち関係」をタイトルにして「自分の気持ちを知り、自らを理解することがコミュニケーション力の向上につながる」といった内容になっています。目に見えない自分の気持ちを「イライラ星人」「不安ダヨ星人」「ハッピー星人」など、イラストを用いて視覚的イメージで表現しています。自分のことをダメだと感じたとき、うそをついてしまったときどうするかなども漫画で分かりやすくストーリー展開されています。気持ちに波があり急にイライラしてしまう子や自己肯定感が低いと感じる子と話をしたときに、「本書を活用して良かった」と実感しました。文字をそのまま読むだけでは理解が難しい子には、言葉を足したり、簡単な言葉に直したりするだけでなく、本書を利用するなど、視覚支援を用いて説明するのが効果的です。

編集後記

サポート通信今年度最終号をお読みいただきありがとうございました。客観的かつ多角的な視点を失わず、来年度も引き続きサポート通信の内容を充実させていきたいと存じます。様々な教材の紹介や本校で行われたアセスメント研修の報告、お薦め書籍の紹介など、取り上げた記事が指導に少しでも役立つことを目指します。記事に関して御感想などございましたら、下記へ御連絡いただければ幸いです。

■　記事に関するお問い合わせ
広島市立広島特別支援学校
〒734-0013 広島市南区出島四丁目１番１号
TEL (082) 250-7101　FAX (082) 250-7102
担当　特別支援教育コーディネーター　林　美香子
MAIL：　yougo-s@e.city.hiroshima.jp